



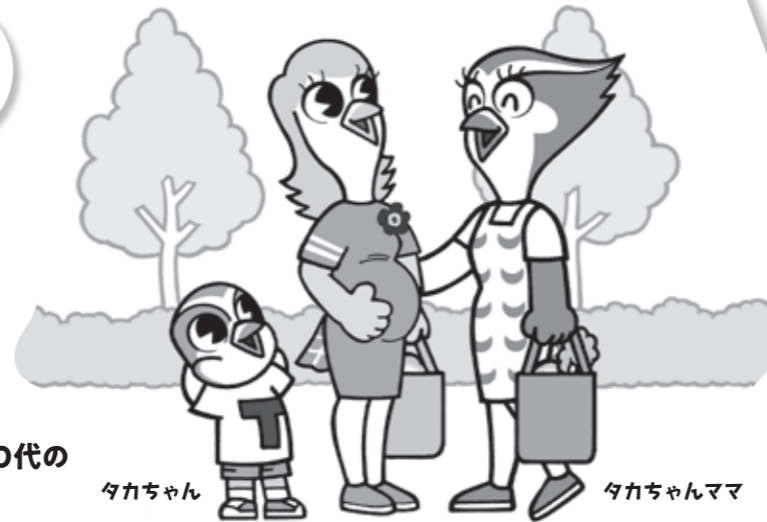
健やか豆知識

第3回

Q. 風疹の患者数として
もっとも多いのは、
次のどの年代でしょうか。

(2019年5月現在)

- I 20~40代の女性 II 20~50代の男性 III 50~80代の女性



タカちゃん

タカちゃんママ

風疹ワクチンで先天性風疹症候群を予防

風疹は、風疹ウイルスによって起こる急性の感染症です。風疹ウイルスは咳やくしゃみなどから飛沫感染で人から人にうつり、1人の風疹患者さんから5~7人に感染するといわれる、感染力の強いウイルスです。風疹の症状は発熱や発疹などですが、症状が出ないこともあり、風疹にかかったという自覚がないまま人にうつして、感染を広げてしまうこともあります。

風疹の感染で特に注意しなければならないのが妊婦さんです。妊娠20週ぐらいまでの妊婦さんが風疹に感染すると、耳や心臓、眼に障害が現れる先天性風疹症候群のお子さんが生まれる可能性が高くなります。流産することも、生涯にわたる後遺症を抱えることもあります。

最近の日本では風疹患者さんの9割以上が大人です。特に多いのが20~50代の男性で(2019年5月現在)、この年代は家庭や職場において妊婦さんと接する機会が多いため、問題になっています。

かつて日本では風疹ワクチンを女子中学生のみに接種していて、男性にはしていませんでした。そのため抗体がなく風疹にかかりやすいのです。そこで政府が助成金を出し、対象の中年男性に抗体検査と必要に応じてワクチン接種を始めました。

ワクチン接種には、「個人を守る」と「社会を守る」の2つの役割があります。将来生まれてくる子どもたちを先天性風疹症候群から守るため、子どもだけでなく大人の男女も、風疹ワクチンを接種しておくことが大切です。

監修 堀越 裕歩 東京都立小児総合医療センター感染症科 医長

< II 堀越 >

高田製薬株式会社

〒336-8666 埼玉県さいたま市南区沼影1丁目11-1

高田製薬

www.takata-seiyaku.co.jp

さらに詳しい情報は
ホームページで!

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください